

JAISA(一般社団法人 日本自動認識システム協会) について

設立の目的

『自動認識機器及びそれに関連するソフトウェアに関する調査研究、規格の立案及び標準化の推進、普及及び啓発等を行うことにより、製造・流通・物流等のシステムの効率化及び高度化の推進を図り、もって我が国経済の発展及び国民生活の向上に寄与すること。』

事業概要 ※2025年6月現在、会員企業数：130社

- ・普及啓発（展示会、技術者認定、セミナー、他）
- ・市場統計調査
- ・経産省、総務省、産業団体、標準化団体からの受託研究
- ・規格立案および標準化の推進（JIS化・国際標準化）

JAISA活動におけるメリット

1.規格化・国際標準化活動への参画

企業単独では難しい国際標準化活動に共同で参画し、**製品競争力と市場拡大に貢献**できます。

2.最新技術・業界情報の入手とビジネスチャンスの拡大

部会やプロジェクトへの参加を通じて、最新技術や業界情報を得られ、**会員企業間の交流でビジネスチャンスを拡大**できます。

3.ユーザー見学会や導入事例発表の機会

自動認識ユーザーの見学会に参加できるほか、自社の新製品や導入事例を発表する機会が得られ、**学びと情報発信**に繋がります。

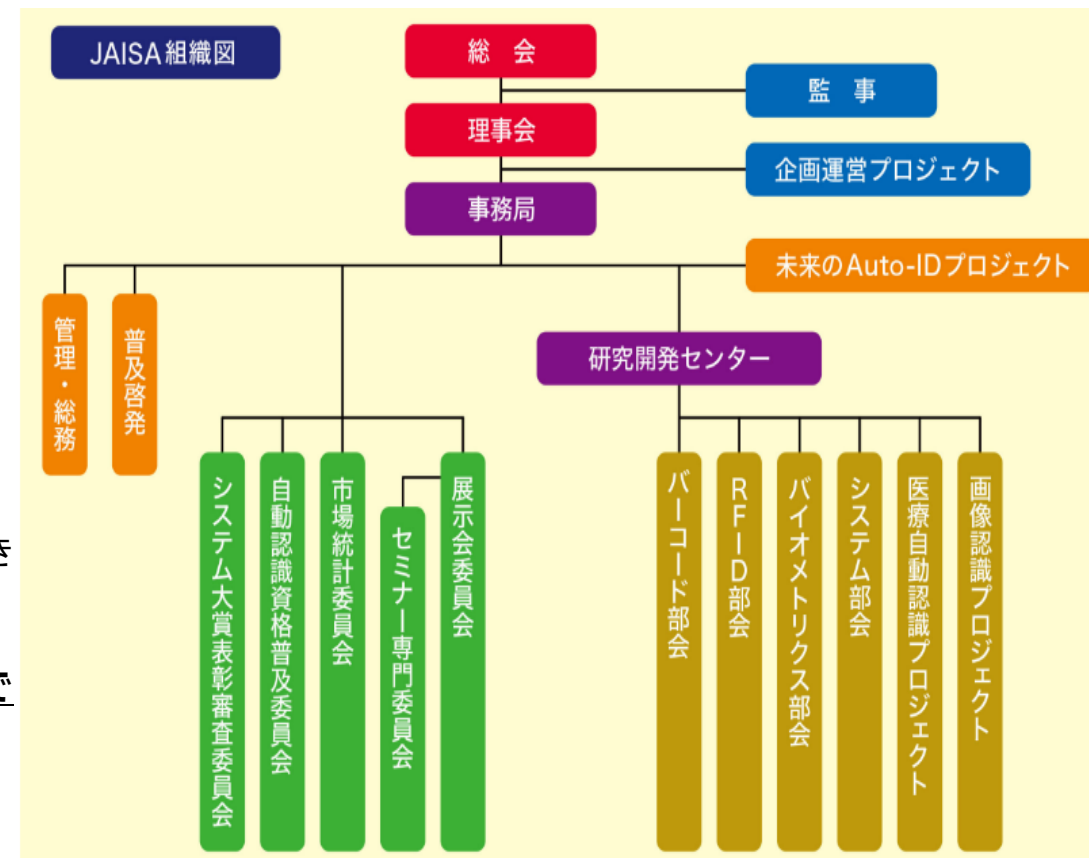
4.市場調査報告書の無料提供

自動認識市場の出荷実績と市場予測に関する詳細な調査報告書が毎年無料で提供され、**事業戦略に役立ちます**。

5.自動認識総合展の出展料等、各種割引

自動認識総合展の出展料や自動認識技術者資格認定講習・試験、基礎知識セミナー受講料等が割引され、**製品プロモーションや人材育成を強化**できます。

協会組織図



参考：JAISA活動アウトプット一覧

＜JIS化や国際標準化実績＞

1997年 2次元シンボル「QRコード」がAIM International（国際自動認識工業会）規格として制定（ISS-QR Code）
2005年 バーコード検証器の適合仕様（1D）のJIS化（JIS X 0521-1）
2010年 二次元シンボルPDF-417のJIS化（JIS X 0508）
2013年 マルチモーダル生体認証における認証性能評価基準に関する標準化
2013年 リライタブルハイブリッドメディアのJIS化（JIS X 0525）
2015年 二次元シンボル データマトリックスのJIS化（JIS X 0512）
2016年 クラウドセキュリティに資するバイオメトリクス認証のセキュリティ評価基盤整備に必要な国際標準化・普及基盤構築
2017年 RFIDのサプライチェーンへの適用 5規格のJIS化（JIS Z 0663～0667）
2017年 バーコード印刷品質評価仕様（2D）のJIS化（JIS X 0526）
2018年 プリント及びリーダの性能評価仕様のJIS化（JIS X 0527）
2022年 JIS X 0527を国際標準ISO/IEC24458化
2024年 少ないサンプル数で評価できる新しい生体認証精度評価方法（ISO/IEC5152）

＜ガイドライン＞

- 知って守ろうバーコード規格 正しい印字と読取りのためのガイドライン
- 医療用医薬品新バーコード対応リーダ一覧
- RFIDユーザのための『RFID活用ガイドライン』～製造業編～（第3版）
 - 別冊 ケーススタディ1「S-1 製造仕掛品の所在管理」編
 - 別冊 ケーススタディ2「S-2 資産管理 RTI容器管理」編
- 2022年度RFタグ読取評価基準の検討 報告書（本編）及びTIPP評価結果報告
- 920MHz帯RFID無線局申請ガイドライン（Ver2.0）
- UHF帯RFID標準コード体系ガイドライン ver1.4
- UHF帯RFタグ運用ガイドライン（第1版）
- RFID機器運用ガイドライン(植込み型医療機器等への影響に関する対応策)Rev.C
- RFID機器運用ガイドラインQ&A集（植込み型医療機器等への影響に対する対応策）Ver.F
- UHF帯(920MHz)電子タグ利用状況の調査報告書
- RFID人体防護ガイドライン
- 画像認識技術導入ガイドライン

＜調査・研究活動＞

- ・自動認識市場動向調査
- ・バーコード関連の調査研究
- ・RFID電波関連調査研究、活用ガイドラインなどの制作
- ・生体認証関連の調査研究
- ・画像認識に関する調査研究
- ・医療分野の自動認識システム活用に関する調査研究

＜普及啓発活動＞

- ・自動認識総合展の開催（東京・大阪・名古屋、セミナー併設）
- ・自動認識システム大賞
- ・自動認識技術者認定講習・試験
- ・自動認識の基礎知識セミナー
- ・会報誌の発行、メルマガの配信